

秋の彼岸によせて 令和三年九月

大乘寺 長老 岡 光俊

今、世界では毎日、夥おびただしい人命がコロナウイルスによって奪われていきます。

このようなときにこそ、私たち一人一人の命の尊とうとさ、重さに向き合ってみたいと思います。

私たちの命は、現在、人類が遭遇しているウイルスの脅威のみに留とどまらず、自然災害、飢餓、戦争などの多難のなかを奇跡的に潜くぐり抜けて下さったご先祖さまが、数千年の長きに渡り、繋つないで下さったものです。

お釋迦さまが私たちに説いて下さったお話に、因縁因果いんねんいんがの教えがあります。

「私たちが目の当あたりにしているすべての原因は、私たちがしてきたことそのものである。ほかにはなんの要因もない」と申されています。

「私たちがしてきたこと」と聞いて、多くのかたは口を揃えて、「そのようなことをしてきた覚えはない」と申されます。

実は、時間の捉とらえかたが異なるからです。

私たちの感覚では、今世こんせに生まれてから今日こんにちまでのことを想像しますが、お釋迦さまは、何十世も何百世も過去を含んでのことと申されます。

時間の捉とらえかたがそうであれば、空間の捉とらえかたも違い、地球すべてを意味します。

そして、命の意味も肉体の命ではなく、魂たましいの命のことを申されています。

肉体の命がなければ、悲しみ、苦しみ、痛み、喜びが体験できません。

肉体をお借りしているあいだだけ、体験が許されます。肉体をお借りして、お返しするまでを一生、一世とし、人は何生も何生も肉体をお借りして、多くの体験のなかで魂を磨かせて頂くことが人のあるべき姿だと申されています。

人の命は、魂の命。命に対する捉えかたが大きく変わってくるのではないのでしょうか。

さて、皆さまの今日までの経験からも、何事も「基本が大切」ということは異論のないことでしょう。この基本を体得するための方法を系統立ててお教え下さっているのが、お経です。

コロナ禍での巣籠もりを絶好の機会と捉えて、お経に親しみ、人としての正しい基本を身につけ、ご先祖さまの安穩を願って頂ければと思います。

この時代に命を頂いた意味は因縁因果のお教えからも必ずあると確信して頂き、それぞれ自分に課せられた役目を充分果たし、次の世代の希望の灯火となる、またとない精進の機会となればと思います。

秋の彼岸、心の籠もった貧者の一灯を捧げて頂き、人々の灯火に、また、ご先祖さまの灯火とやらせて頂くことを願い、明るく爽やかな秋風のなか、ご家族共々、墓参頂ければと願うものにございます。